

膿胸および肺炎随伴性胸水の加療に関する研究について

この度海老名総合病院呼吸器内科では入院・通院されていた患者さんの診療情報を用いた研究を実施させていただきます。

この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。またプライバシー保護について法令等を遵守し研究を行わせて頂きます。

試料・情報について、本研究への利用をのぞまれない場合は以下担当医師にご連絡ください。

1. 研究目的

肺炎随伴性胸水および膿胸（胸腔内の感染症）は、抗菌薬に加えて局所麻酔で胸腔ドレーンを挿入し、貯留している胸水を排出（ドレナージ）する必要があります。しかし、このような内科的治療のみでは完全には胸水を排出できず、手術が必要となったり入院期間が延長したりすることに繋がります。これまで、貯留した胸水をドレナージしやすくするためにウロキナーゼという薬剤を胸腔内に投与する治療法が広く用いられてきました。しかし、製造過程における品質劣化の問題によりウロキナーゼの供給が2022年以降停止し、代替治療法の必要性が高まりました。当院では、2016年よりIVR（Interventional Radiology：画像下治療）科の協力のもとX線透視下でガイドワイヤを用いたカテーテル挿入法による胸腔ドレナージを導入しており、ウロキナーゼが使用困難となった後も積極的に同法を採用してきました。本研究では、ウロキナーゼ使用停止や透視下ドレナージ法導入がドレーン挿入期間などの治療経過に与える影響を調べることを目的とします。

2. 研究方法

1) 研究対象

2008年4月～2025年7月に膿胸または肺炎随伴性胸水で当院呼吸器内科に入院した患者さん

2) 実施期間 倫理委員会承認後～2030年3月

3) 研究方法 診療情報（カルテ）を参照した後ろ向き研究

4) 研究成果の公表 学術論文

3. 試料・情報

臨床情報として収集するのは年齢、性別、既往歴、臨床症状、血液生化学検査、胸水細胞分画・生化学検査・細菌学的検査、胸部画像所見、ドレナージ法、ドレーン挿入期間、転帰、追加治療（ウロキナーゼ胸腔内投与、生理食塩水による胸腔内洗浄、外科的治療）です。

個人が特定できる情報（氏名、住所、生年月日など）は除外し、個人とは関係ない番号を付与（仮名加工）してデータを扱います。カルテ番号との対応表は施錠できる病院内の施設で保管します。

研究成果は個人が特定できないような形で発表を行います。

4. 外部への試料・情報の提供

収集した情報は外部へ提供を行いません。

5. 本研究責任者およびお問合せ先

本研究にご質問がありましたら下記の連絡先までお問合せください。お申し出によりそれ以降の分析から個人データを除外することは可能ですが、お申し出時点より前の分析および発表済の研究結果からの削除は出来ない場合がありますのでご承知くださいますようお願い致します。

施設名 : 海老名総合病院

住所 : 神奈川県海老名市中央 4 丁目 16-1

電話 : 046-233-1311

研究責任者 : 副院長 呼吸器内科 滝原崇久